

「環境未来都市」構想への堺市の提案概要

将来ビジョン

幸せを創造し続けるまち SAKAI

「幸せを創造し続けるまち」とは、働き、学び、暮らし、また、活躍するあらゆるステージにおいて、誰もが生きがいを感じ住み続けたいと思える魅力を、市民、事業者、大学、行政等が連携して持続的に創出し続けるまちである。

堺市は、南蛮貿易をはじめ海外との交流拠点として発展してきた中心市街地の豊かな歴史、臨海部コンビナートを中心に発展してきた産業基盤、泉北ニュータウンなどをはじめとした郊外居住の都市構造などを特徴（強み）としており、これらに環境や超高齢化対応などの新しい都市戦略を掛け合わせることで、子どもから高齢者まで誰もが住み続けたいと思える都市創造をめざしている。

2050年にめざすまちの姿

- A** 環境と産業・地域が調和して持続的に魅力創造を続け、アジアの発展を牽引する環境先進都市
 - ・産業都市の使命としての、廃棄物の有用資源化・エネルギー化の推進
 - ・安心で安全なまちづくりのためのエネルギー地産地消の推進
- B** 子どもから高齢者まで元気に安心して暮らせるまち
 - ・子どもが元気に育つ、自然環境の保全や改善
 - ・高齢者が安心し、生き活きと暮らせる地域環境の整備と共助モデルの構築

具体的な取り組み

1. 白砂青松・茅渚（ちぬ）の海再生プロジェクト

A B

臨海部の泊地内ウォーターフロントの豊かな生態系回復と水質改善により、陸上部と海域部が連携した新たな親水空間を創出するため、堺浜北泊地の海域をモデル区域として、生物の育成・生息の場を創出し海洋浄化を行う。

2. 21世紀型バイオマス・リファイナリー・システムの構築

A

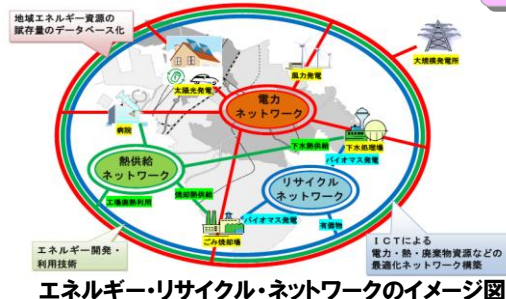


①海・淡水系藻類ファーム事業、②藻類からの油脂類等の抽出事業、③藻類と廃食品等による海陸一体型メタン発酵事業、④消化液や炭化物による植物工場事業の4事業による堺版サプライチェーンを構築する。

3. 未利用エネルギー資源を利用した低炭素型の都市システムの構築

A

臨海部に工場が集中する都市構造を活かして、現在未利用になっている排熱エネルギーを共同溝などを使って輸送、熱融通による省エネルギーを進める。



4. 民間資金を活用したまちなかへのソーラー発電設置モデルの構築

A

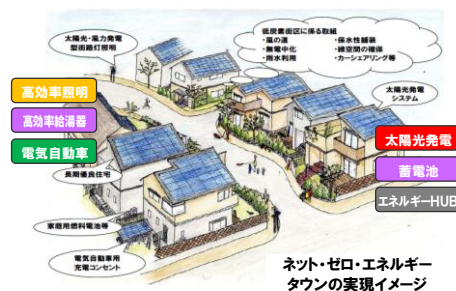


市民、企業出資による整備、売電による利益配当をベースとしたソーラー発電のモデル事業を構築・推進する。

5. 次世代ライフスタイルのモデルとなるネット・ゼロ・エネルギー・タウンの整備

A B

市内の小学校跡地を活用して先導的なネット・ゼロ・エネルギー・タウン（戸建約70戸規模）を形成。ネットゼロエネルギータウンの実現をめざした取組を進める。



6. 地域の金融機関連携による環境格付融資の展開

A



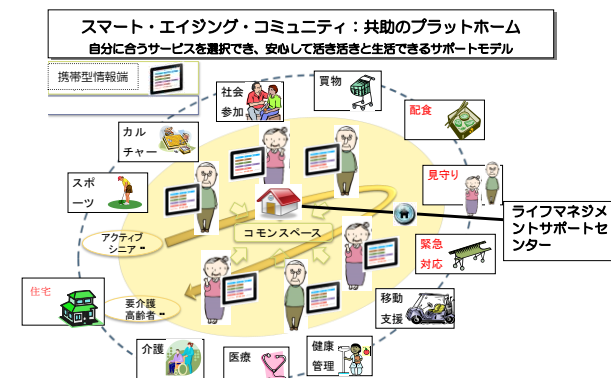
相互協力関する協定締結式（平成22年2月）

市内中小企業の環境投資の拡大を目標に、市内金融機関が連携して環境格付融資を実施し、企業の環境配慮型企業活動を促進する。金融機関独自の環境格付融資の実施に合わせ、堺市の融資制度においても、環境格付けを行う。

7. 泉北ほっとけないネットワークの拡大による地域の共助モデル構築

A B

在宅要援助者に対する支援ですでに実績をもつ泉北ほっとけないネットワークの取組みを発展的に拡大して、地域の人的・物的ストックを活用しながら、ICT技術で多種多様なサービスを連結して、幅広い高齢者に対応する地域の共助モデルを構築する。



8. 高齢者の移動利便性を高める超コンパクトモビリティの導入

A B



超コンパクトモビリティ例

泉北ニュータウンなど丘陵地の住宅地では、高齢者の近距離移動手段の確保が急務。操作性・安全性なども兼ね備えたコンパクトモビリティを地域に導入し、事業運営することで交流と活躍の場の創出をめざす。

21世紀型バイオマス・リファインリーのイメージ

👉 資源の再生
👉 自然の再生

👉 エネルギーの再生
👉 産業の再生

①②海・淡水系藻類ファーム事業

③藻類からの油脂類等の抽出事業 ④海陸一体型メタン発酵事業



21世紀型バイオマス・リファインリー
“藻類ファーム”が拓く
自然/資源/エネルギー
再生型生産システム
4つの再生

👉 産業の再生

☆ブランド野菜
☆油糧植物

☆炭化物
・燃料
・栽培用培地

☆メタンガス
・電気
・燃料
・熱